

未来へ紡ぐ白のオブジェ

現代アート作家の岩井成昭さん

十勝千年の森に300個展示

【清水】東京を拠点に活動する現代アート作家の岩井成昭さん(48)が14日、十勝千年の森(町羽帯、ランラン・



ミスナラの木の周囲にオブジェを並べる岩井さん

「幣のフィールド」は、手のひらサイズの白い陶のオブジェを同森内のミスナラの木の周囲に敷き詰め、千年後の未来に紡いでいくアート・プロジェクト。雄大な自然の中に小さな作品を置くというギャップや、やがてオブジェもミスナラの成長とともに自然の懷に抱かれていく様が楽しめる、千年かけて出来上がっていく作品。

オブジェは2006年から全国でワークショップを開き、幅広い世代の人たちが「千年先に残したいもの」をテーマに思い思いの発想で制作してきた。多くは新得町陶芸センター狩勝窯で素焼きと本焼きを行ってきた。

この日は長崎県波佐見町や神奈川県横浜市から寄せられたオブジェ約300個を、岩井さんが木を囲む円になるよ

うに並べていった。岩井さんは「増え続けるオブジェ、見るたびに自然に取り込まれていく作品を何度も楽しんでほしい」と話していた。
(藤原剣)